

子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 山形 報告書



2017年2月5日（日）、子どもの貧困対策全国47都道府県キャラバン in 山形（以下、全国キャラバン in 山形）が山形県との共催で山形市総合福祉センターにて開催されました。会場には、第一部・第二部合わせて90人が集まりました。

午前中の第一部では、小河光治・代表理事からの挨拶・趣旨説明に続いて、飛塚典子・山形県子育て推進部長より共催のご挨拶をいただきました。その後、齋藤邦仁・山形県子育て推進部子ども家庭課課長補佐、川又英子・山形県ひとり親家庭応援センター相談員、学習支援団体・学び場プラスの学生メンバー、子ども食堂を行う西上紀江子・山形てのひら支援ネット会長の4人からそれぞれの取り組みと子どもの貧困に関してご報告をいただきました。



その後、高校生の高原彩・あすのば子ども委員会、NPO 法人 TEDIC の門馬優・代表理事もコーディネーターとして加わってディスカッションが行われました。山形県や東北地方では地域内のつながりが強く、地域によってはつながりが「しがらみ」になってしまい子どもや親が困っていることを相談しづらい状況があること、そのような地域で子どもを集めるときや接するとき「子どもの貧困」という言葉を使わないよう配慮するが必要とする子どもに届けられているのか葛藤することなど活発な議論や意見が交わされました。



午後の第二部では冒頭に TEDIC、チャンス・フォー・チルドレン、インクルいわて、アスイクの東北地方で活躍するあすのばアドバイザー4団体からお話をいただきました。

その後、「山形県の子ども支援マップづくり」と称したグループワークを行い、子どもと関わりのある人や子どもを取り巻く環境がどれくらい県内にあるのか整理をしました。参加者からは「県内には中学生の居場所が少ないのかもしれない。新たな発見があった。」と感想をいただきました。



意見交換では、参加したそれぞれの立場から、子どもが安心して暮らすことのできる地域に向けてできることなどを話し合いました。学生も意見交換のグループ

に入って活発な意見交換が行われたことで、温かい地域のつながりを構築する必要性を共有しながら全国キャラバン in 山形は閉会となりました。

参加者からは「子どもの貧困という言葉のイメージが『ボロボロの服』から『見えない貧困』に変わりました。(30代・男性)」、「登壇者が伝えていた『支援の連鎖』が良い言葉だと思います。何かお手伝いできればいいと思います。(40代・女性)」、「福祉と教育(学校)との接点が足りないと思います。このような会があることを学校現場にもっと広めていきたい。(30代・女性)」、「とてもわかりやすく、多岐にわたって意見がきけた。自己満足におわっていないことにとっても好感がもてる。自分の職業と照らし合わせ、明日からできることをすぐに実践していこうと思う。(40代・女性)」、「なかなか自分の住む地域でこうした会に参加できる機会が少ないので、非常に有意義な時間を過ごすことができました。もっともっと、山形を若者がいきいき暮らせる地域にしていく活動が増えてほしいし自分も参画していけたらと思います。(20代・男性)」、「ステークホルダーマップで様々な視点で子どもたちのことについて考えられてとても貴重な時間でした。(20代・女性)」などの感想をいただきました。

今回の全国キャラバン in 山形には子どもの貧困に関する行事に始めて参加した人が多くいました。来年度以降の全国キャラバンにおいても各地で一人でも多くの方々にご参加いただき、子どもの貧困やその対策への理解を深めながら子どもを中心とした地域のつながりを構築するきっかけをつくってまいります。

【子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 山形】

日 時：2017年2月5日(日) 第一部 10時～12時 第二部 13時～16時

場 所：山形市総合福祉センター／主 催：公益財団法人あすのば／共 催：山形県

後 援：内閣府、山形市

参加者：90人